



背景・課題

- 『志布志』という名の由来
- 志布志港は、平安時代末期に島津荘の唯一の水門（港）として開かれた港
- 以降、薩摩藩の重要な貿易拠点として栄え、江戸時代には「千軒の町」（人家が千軒もある程の賑わい）と謳われる程の町並みを形成
- また、志布志地区は、「志布志お釈迦まつり」や「山宮神社春祭り」など、伝統的な無形文化財も多く残る
- 先人たちの残した、このストーリー性の多い史跡を生かし、

この地に住んでいた女性と待女が、天智天皇に布を献上したところ、「上からも下からも志として布を献じたことは誠に志布志である」と言われたことがその名の由来



「未来へつなぐ、歴史のまちづくりを！」 その思いで、事業がスタートした。

事業内容

- 本年度、「志布志東部地区エリア基本計画」を官民とともに策定し、**次年度以降、建屋改修を目指す**
- 最終的には、地域での生活や文化を新たな時代につなげていくため、**歴史的資源を活用し、志布志麓地区の古民家を交流拠点として再生**

**志布志東部地区を舞台に、
人の流れを生み出すまちづくりを目指す！**



この事業のベネフィット (感謝の気持ち)

- **施設内に「会社名」の銘板の設置**